

新春トップインタビュー

昭和産業

新妻一彦社長



昭和産業の社長として、4月期の緊急措置として、4月期の

政府売渡価格を適用する(据え置く)こととなった。4月期の値上げを受け、粉価改定に取り組み、お取り引き先の理解も得ることができ進捗、浸透した。製粉の需要は、前年比では100%となったが、対19年比では元に戻っておらず、まだまだ厳しい状況が続いている。小麦粉は即席麺、パン(ホールセー

子会社化し、新たな油種としてこめ油を加えられたことも油脂事業の収益確保に寄与している。

「もう包まない!混ぜ餃子の素」は、皮がないのにまるで皮のようなパリッと食感が人気となったが、それに加え、包材のデザインも注目を集めた。昭和産業といえば、30、40代以上の方にとっては、天ぷら粉やホットケーキミックスといったイメージが強い

が、SNS上ではいわゆるZ世代の人たち自らが興味をもった情報を発信している。若い世代を取り込みながら、昭和産業の情報を発信できるメリットを生かすため、Twitterの公式アカウントやECサイトの充実を図っている。

SMやGMSのバックヤードでは、食品ロスの削減等の観点から仕込み数量も減ってきており、従来の5kg、10kg単位のサイズではなく、数百g〜2kgまでの小分けされたプレミックスの需要が高まっているため、家庭用に加え、小ロットの業務用プレミックスまでを一気通貫で作れる設備とした。人手不足もあり、プレミックス需要が高まっていることから、稼働率が高い状態が続いている。

2025年度に創業90周年を迎える昭和産業。昨年は、辻製油と業務提携するなど、製油業界の再編をリードする存在でもある。23年からは収穫のステージと位置づける「中期経営計画23-25」をスタートさせ、組織改編にも取り組む同社の現在とこれからの新妻一彦社長に聞いた。

(聞き手 川田岳郎)

2022年を振り返って

年初から原料高に見舞われる歴史的な年となった。新型コロナウイルスは、第6波、第7波の影響により経済活動の戻りが遅かったが徐々にウイズコロナ・アフターコロナへと動き出している。ウクライナ情勢の影響により原料穀物相場は上昇、エネルギー価格も上昇した。日米金利差による円安ドル高が進行し、一時は32年ぶりの安値となる151円を記録した。原料穀物の多くを海外から輸入している当社にとっては厳しい一年だった。

2023年の抱負を

「中期経営計画20-22」では、ポニー油脂・サンエイ糖化の子会社化や、船橋プレミックス第2工場の新設、環境問題への取り組みなど、必要な投資は着実に実行してきた。「長期ビジョン」の「収穫」のステージとなる「中期経営計画23-25」では、持続的な成長に向けたビジネスモデルへの進化、外部環境の変化に左右されにくい収益構造改革に取り組んでいく。そして創業90周年、100周年を見据えた次期中計の1年目として、各施策に取り組みことでV字回復を目指していく。

90周年に向け「中計23-25」スタート

辻製油は、

「中期経営計画20-22」

「もう包まない!混ぜ餃子の素」は、皮がないのにまるで皮のようなパリッと食感が人気となったが、それに加え、包材のデザインも注目を集めた。昭和産業といえば、30、40代以上の方にとっては、天ぷら粉やホットケーキミックスといったイメージが強い

が、SNS上ではいわゆるZ世代の人たち自らが興味をもった情報を発信している。若い世代を取り込みながら、昭和産業の情報を発信できるメリットを生かすため、Twitterの公式アカウントやECサイトの充実を図っている。

SMやGMSのバックヤードでは、食品ロスの削減等の観点から仕込み数量も減ってきており、従来の5kg、10kg単位のサイズではなく、数百g〜2kgまでの小分けされたプレミックスの需要が高まっているため、家庭用に加え、小ロットの業務用プレミックスまでを一気通貫で作れる設備とした。人手不足もあり、プレミックス需要が高まっていることから、稼働率が高い状態が続いている。

辻製油は、コーン油・菜種油を中心とした製油事業に加え、レシチンなどの機能性事業やアグリ事業を展開している。コーン油の原料となるコーンジャームを製造するスターチ工場と、辻製油と当社グループのコーンジャーム搾油設備・精製設備の有効活用による事業規模の拡大や製造の効率化、コスト低減に加え、糖化製品・コーン油製品の安定供給を図る。

「第2四半期決算説明会」では組織改編についても言及された

現在、広域営業部、ソ